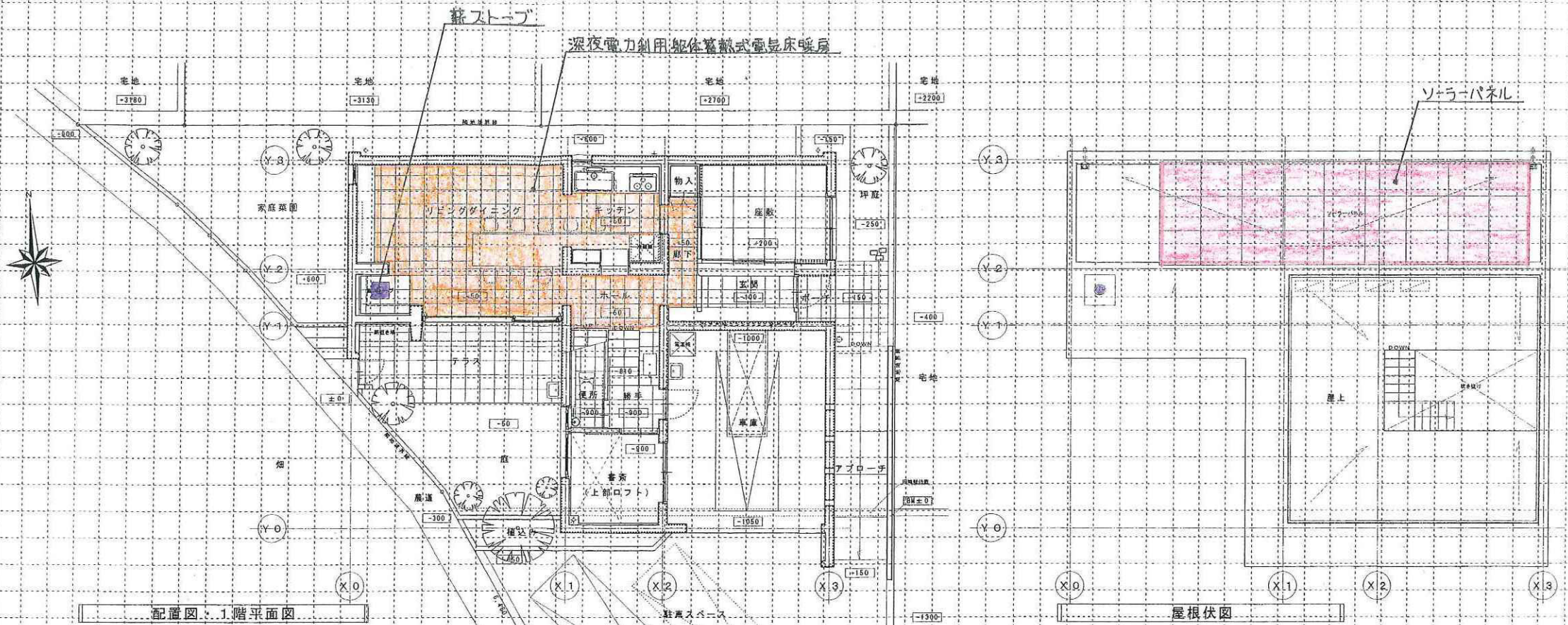


作品番号011-1

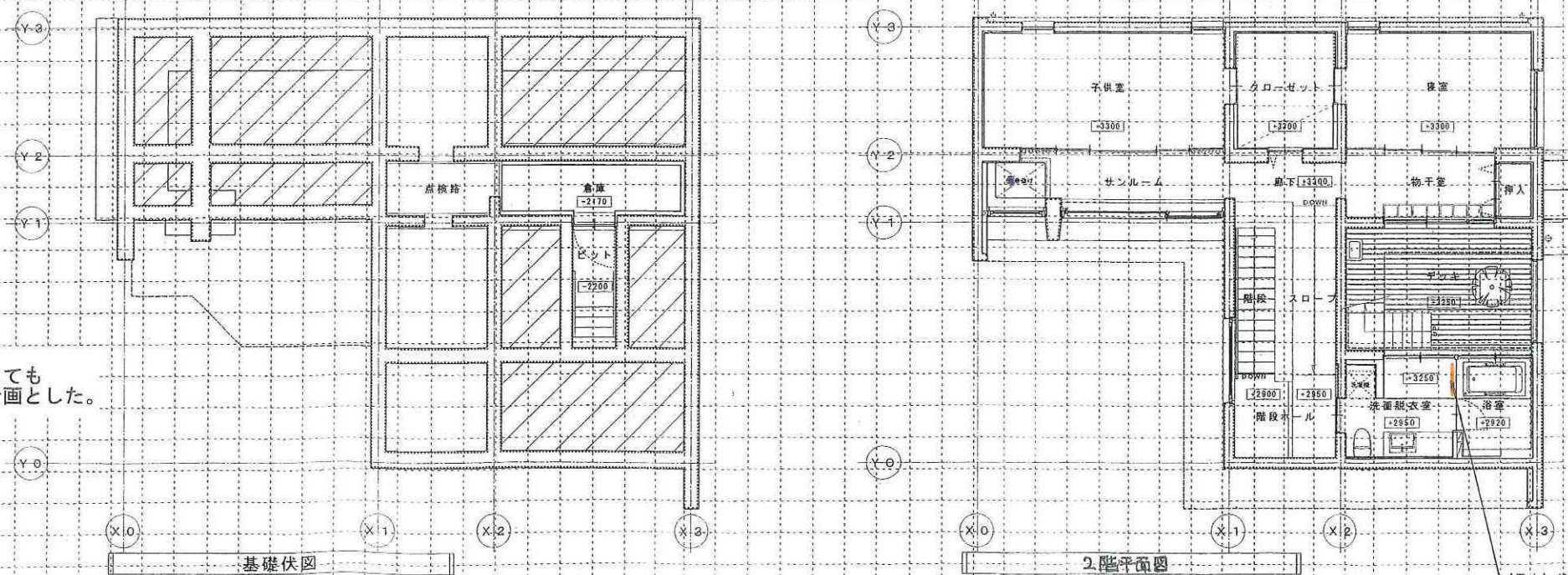


●計画にあたり考慮した事項

本物件は設計者の自邸であり、趣味、生活スタイルなどのこだわりを実現させつつも快適性や経済性のバランスを考え貫いて建てた住宅です。
敷地は小高い山を縦壇状に造成した新興住宅地の西端の敷地でやや変形地ではあるが、南西の方角は農道を挟んで山の斜面に沿って畑が有るだけで視界を遮る物も無く良好な景観を確保できる敷地であった。
そこで、住宅の建ち並ぶ北面と東面、夕日が直接入る西面を閉じて必要最低限の開口のみに抑さえ、敷地形状に沿わせたL字型の建物とし南西方向に開いた南面に大きく開口をとり、日射は直上に設けた庇と袖壁でコントロールした。そのL字の形状で受ける風は予想以上に強く、1階の通風は常に十分すぎるほど確保できた。
2階は、大きな吹き抜けのデッキを挟むようにプライベートスペースとサニタリースペースを設け採光、通風と共にプライバシーや防犯性も確保。
ドイツ製の強固な金物を使った木製サッシを使用し、留守中にも風を回す事のできる開口計画とし尚且つそれぞれの窓から見える風景を計算し、機能以上にそれぞれの窓に意味を持たせた。
また、全国一の森林率ゆえに安価に手に入り易い薪を燃料とするストーブやトップクラスの日射量を利用した太陽光発電設備を採用。
本県の気候風土を最大限に活用し、さらに地形、敷地条件を読み解き日射、自然光、風などをコントロールする事により各設備機器に頼りきる事のない建物となるよう計画した。
冬場の補助暖房として深夜電力利用の躯体蓄熱式床暖房を採用
1階の床を縦壇状の敷地に60cm程度埋めた形状とし、蓄熱効果を高める工夫をしている。
床仕上げには御影石を採用したが、これが夏場に予想外の活躍をしてくれた半地下の形状も手伝ってか、常に床がひんやりとして気持ちの良い空間となった。
意匠面で最も考慮したのが建物の重厚感。
20年、30年と月日が経つほど魅力を増す建物を目指し、経年変化を楽しむ事のできる材料を使用且つ、それに答える事のできる構造対応年数となるよう設計
(コンクリート配合、クラック制御、撥水コーティング等)
設備は建物の中央に集約させ、経年による劣化や近い将来訪れるであろう地震などのトラブルに対しても地下の点検路、壁や天井に設けた点検口により、全ての配管の交換、メンテナンスを容易に行える計画とした。
また、今後の計画として屋上と壁面の緑化を計画しており植栽の成長と共に、更に環境に好適な建物となるであろうと思われる。

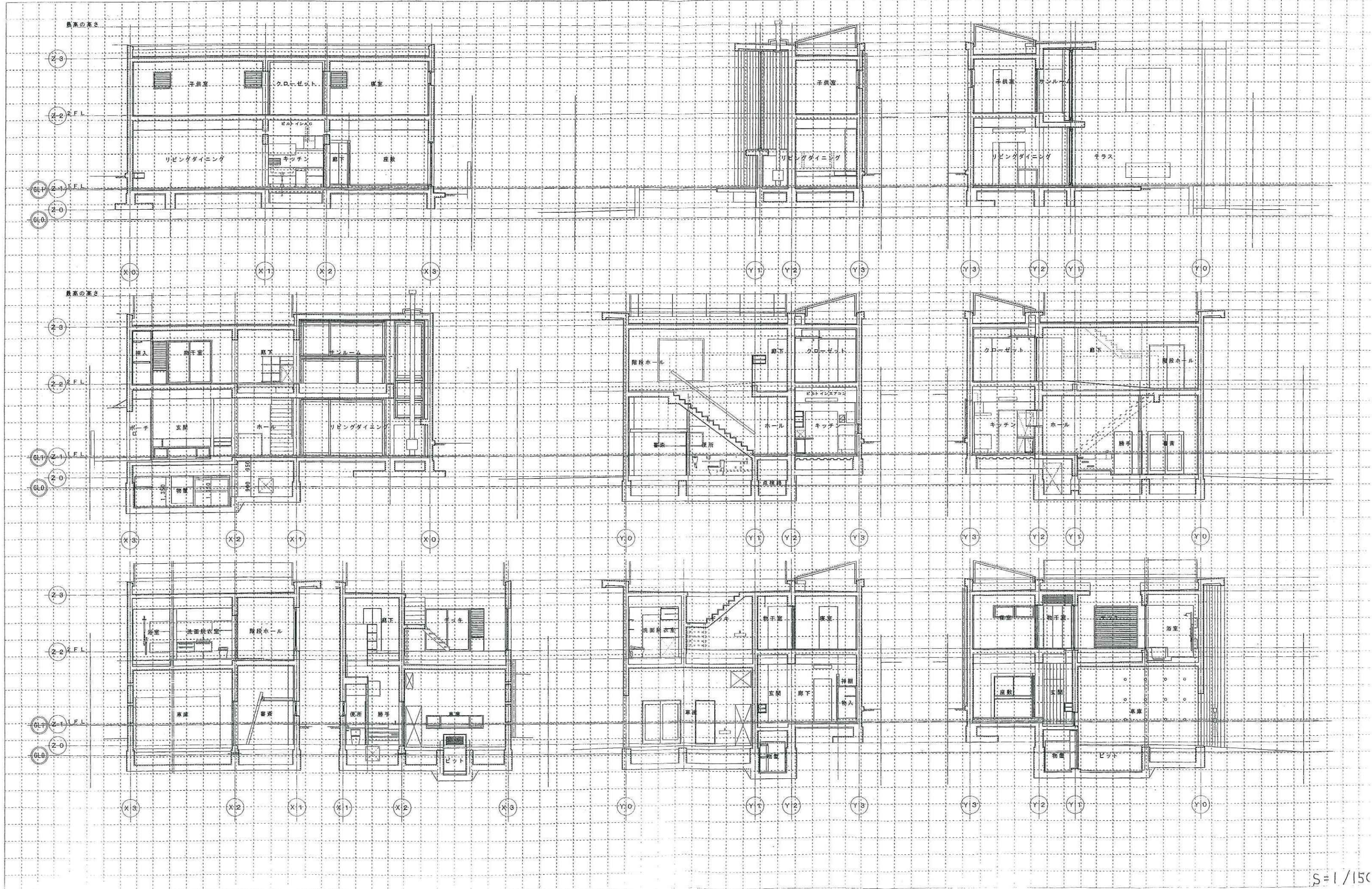
●その他

- ・オール電化
- ・エコキュート
- ・太陽光発電による非常用コンセント
- ・非常用電源内蔵の照明器具を設置



輻射式電気K-5

作品番号011-2



作品番号011-3



外観(南面)



外観(西面)



リビングダイニング



リビングダイニング



リビングダイニング

作品番号011-4



子供室



サンルーム



洗面脱衣室



薪ストーブ



ホール



浴室